

# 働きやすい 職場づくり

取組事例集 2018



働きやすい・働きがいのある  
職場づくりの取組をご紹介します！

### ③ 倉敷木材 株式会社

所在地：倉敷市中島 1000-1 創業：1907年  
 資本金：3,000万円 従業員数：61名  
 事業概要：卸売業（木材、建材）、建設業

#### 取組のポイント

- ・生活者の視点をもった企業人の育成
- ・「働き方に制約のある社員」も含めた相互尊重の風土作り



#### 取組前（きっかけ）

- **社会的責任**  
長時間労働等による過労自殺や過労死を防ぐことは最も基本的な社会的責任である。
- **インクルージョンの実現**  
育児、介護、障害等の何らかの制約を抱える社員の活躍を促したい。
- **企業競争力の向上**  
当社は住宅に関連した仕事をしている。社員がもっと家庭に関わることで、より良い仕事ができる。

#### 取組後（効果）

- **顧客からの評価**  
属人的な営業スタイルからチーム営業スタイルに移行したことを法人顧客から評価された。個人顧客（特に女性客）から、取り組み姿勢を評価される機会が増えた。
- **有給休暇取得率の向上**（但し有休計画付与も含む）
- **社員の地域活動への参加**  
スポーツチームの監督、町内会活動等への参加増加。
- **女性リーダーの誕生**  
組織改編にあたり、新たに女性リーダーが2人誕生。

#### 取組内容

- **主な取り組みの経緯**
- 2006年 ・17時以降の社内会議の段階的廃止に着手（育児・介護を抱える社員の活躍を阻害する要因を減らす）
- 2009年 ・環境認証取得にあたり、労働生産性向上に関する数値目標を設定（「時間」「効率」への意識を高める）
- 2012年 ・働き方を変えることを経営の年間目標に明文化
- 2014年 ・多様性への取り組みを強化  
（例）・男性も短時間勤務制度、フレックス制度、育児休業制度等を利用するように個別に声がけ  
・女性だけで構成されたチームを結成し、女性顧客に向けた企画を実施（「クラモク家づくり研究所」）  
・部門横断的な女性の親睦組織を発足（「みらい塾」）  
・女性専用休憩室を新設（県奨励金受給）
- 2015年 ・国際インターンシップ開始（労働観の多様化に触れる）  
・属人的な営業からチーム営業スタイルへの段階的移行
- 2016年 ・社員の行動規範を新たに設定（「多様・公正・責任」）
- 2017年 ・組織の階層を減らし、フラット化（生産性向上のため）
- 2018年 ・（予定）男性社員による“長期”の育児休業取得第一号

#### 今後の課題

- 長時間労働は解消されつつあるが、生産性の向上が追いついていない。
- 同一労働同一賃金への対応（非正規職員の待遇向上、職務内容の明文化）
- 社員による積極的なボランティア活動、NPO活動（場合によっては副業）への参加の支援、制度面や労働時間管理の問題への対応
- LGBT（性的少数者）への取組（社内：トイレや休憩室のあり方、対顧客：「女性向け」イベントはどうあるべきか？等の問題）

### ④ 株式会社 WORK SMILE LABO

（旧社名：株式会社 石井事務機センター）

所在地：岡山市南区福浜町 15-10 創業：1911年  
 資本金：5,200万円 従業員数：28名  
 事業概要：卸売業（オフィス機器、家具販売）

#### 取組のポイント

- ・テレワークの導入による働く場所を選ばない環境の整備
- ・生産性向上のための環境創りとルール創り

#### 取組前（きっかけ）

- ① 人員の余裕がなく、イレギュラーな休みなどが発生すると、業務に与える影響が大きかった。
  - ② 生産性が低く、残業が多かった。
- ↓
- **働き方を改革する必要がある**  
まずは自社の経営課題を働き方改革により改善するきっかけとなりました。

#### 取組後（効果）

- **テレワークを活用した働き方の多様化**  
休む必要もなくなり社員の生活にゆとりが生まれ、社員満足度が向上した。
- **生産性の向上**  
残業時間の大幅削減（前年比 51.8%）  
売上 / 106.7% ・粗利 / 117.6%（前年比）
- **採用力の向上**  
2018年度岡山県新卒就職希望企業ランキング 12位（H29.4.12 山陽新聞朝刊）  
中途採用応募数の増加（前年比 1.8倍）

#### 取組内容

- **生産性を高める2つの取り組み**
- ① 生産性を高められる環境を作ること（物理的環境）  
外勤も含めた全社員がテレワークをできる環境を整える。  
・電話/来客対応がない分、業務に集中できる  
・外勤メンバーも隙間時間を効率よく活用（意識的環境）  
ノートタイム、退社時間宣言カード、蛍の光（音楽など）  
・時間意識の向上  
・仕事に関係ない会話を減少  
・早く帰り辛い雰囲気を改善
- ② 生産性を高めざるを得ないルールも作る  
PC強制シャットダウン  
・決められた時間に強制的にPCがシャットダウン。  
ネットワークカメラ  
・20時頃に社内を確認し、声がけして退社を促す。
- 【ポイント】 ① 生産性を高められる環境を作ったうえでルールを作ることが重要！  
② 評価制度と連動（人時生産性を評価）

#### 今後の課題

- 働き方の更なる多様性に会社に対応し、社員満足度をより向上させる。
- テレワークの更なる活用（共有型サテライトオフィスの開設）

※掲載情報は、働きやすい職場づくり取組事例集2017発行時点のものです。